

♡「今昔」に「あゆみ」を差し込んでの交互発行を計画しました。自信皆無で薄っぺらな内容しか発信できませんが・よろしく

じめに...

Q. 木知原に人が住み始めたのはいつの頃からだろう?

☞ 雲をつかむような Q であるが「今昔」が江戸以降ばかりなので「木知原の江戸時代以前はどのような暮らしだったのだろう?」と、私の興味関心の観点からのみ少しひも解いてみようと思いました。

史家でも無いので“推測盛沢山”で誤りも多いと思いますが『そんな程度の内容か...』とスルー結構ですのでお付き合いください。

👉 木知原誕生は縄文~弥生時代?

横穴 式住居跡が公民館グランド中央部辺りに昭和25年頃まで残っており何度も中を覗いた記憶がある。

この穴が「横穴式住居跡」であれば石器~弥生時代から木知原に人が住んでいたことになる。

○林茂氏も住居跡と話していましたからすでに稲作を行いながらの定住生活が始まっていたのである。

稲 作は弥生時代中頃には東北地方まで広まったとあるから、この地方では BC100年(2100年前)にはすでに稲作が始まっていた。

☑ 稲作の始まりは今見る平野ではなく谷水や沢水がしみ出る場所に僅かな平地を作つての直播で穂のみを刈り取るという栽培であった。木知原にはそれに適した場所(洞)が多くあり早くから湧き水利用の稲作を行つての定住生活が始まったと推測できる。



横穴場所

ここまで根尾川



根尾川



名知和男氏: 著
「木知原物語」から

👉 木知原は大和朝廷支配を受け始めていた

☞ 当時の木知原に関わる記録に下記の二点がある

日本書記

☑ 開化天皇の皇子(三男)「彦坐王(ヒコイマスノミコ)・日子坐王・彦坐命」の子である「神大根王(カムノオオネノミコ)・八瓜入日子王(ヤツリ)が「三野(美濃)之国本巢国造の祖・長幡部連(ナガハタメムラジ)の祖」 (ヨミガナ・細字は挿入加筆)

濃飛両国通

☑ 「開化天皇、円邇臣の祖姥津命の妹姥津媛を娶りて彦坐王を生み給う。彦坐王は近江の夫御影神の女息水依媛を娶りて丹波道主命及び神大根命思われるが、御井津比賣等を生まれ給う。神大根王は御子多く十一諸国に分散し子持ち多し本巢郡外山村(日当)の高坂神社は神大根王、日子坐王、息長水依姫などを祭ると云う。又開化朝(502年)彦坐王美の国に來住したもう美濃国造を任ず」



《高級住宅》

☺ 卑弥呼や開化天皇の实在説はともかく木知原村は大化の改新(645年)前すでに本巢国造の支配をうける本巢国であった。従つて木知原誕生を弥生時代と推測するも大きな誤りではないと思うが如何でしょうか?

☺ 村の暮らしは統治下と聞くと耳ざわりはいいが、この頃の統治は「税(労役・物納)を納めさせるだけ」で村人は粗末な住居に住み“税のために生きる”という暮らしであった。(中学時代思い出します)

♡ んな調子で時代順に今昔とは異なるふるさと観を楽しんでいただければ幸いです。

研究不足ですので情報提供して頂ければありがたいです。

(No.2は飛鳥時代)